

研究テーマ：「思考力、判断力、表現力を育てる指導とその評価方法の工夫改善について
～ 指導と評価の一体化を図る実践を通して ～

- (1) 単元名： 作って、食べて、考えて、元気になろう！
- (2) 題材名： 夏休みの報告会をしよう
- (3) 本時の指導計画

- ① めあて：夏休みに調べたことを、工夫して発表することができる。
：これからのグループで探究活動していく見通しを持つことができる。
- ② 授業仮説：調べたことを工夫して発表することで相手に分かりやすくできるとともに
これからのグループでの探究活動の見通しを持つことができるであろう。

国頭地区教育課程研究の2回目の検証授業である。

屋部小学校に初任者で赴任し、はや地区の教育課程の研究者として、同僚と共に研究にまい進している。教職経験も浅いが、同僚と協力し、子ども達の真の「生きる力」の育成に向かって互いの授業づくりと、研究テーマである「指導と評価の一体化」の「総合的な学習の時間」の研究が積み上げられていく。

若い教師の「不安」はベテランの教師によって和らげられ、授業づくりのアイデアや工夫は惜しみなく共有されている。支え合う研究員の姿に私も脱帽である。右の写真の授業者の位置に不思議な力がある。



授業者のポジショニングがいい

【賞賛と思いで】

夏休みにお家の人と調べてきたり、作ってきた「モノ・こと」が飾られている。資料の中に本人以外の家族の写真が見られる。楽しそうである。おにいちゃんの手作りアイスを試食する妹だろうか？渾身の笑みである。親も大変であっただろうが、楽しい思い出になったのではないだろうか。すてきな家族を想像する。



【季節(シーズン)】

学校は忙しいところである。運動会シーズン！休みに運動会のダンスの練習をする風景である。みんな楽しそうに踊っている。運動会の結果より、このプロセスを大事にしたい。「皆で成功に向かう。」僕なりに、私なりに精一杯で挑む。親達に見せたいほんとの子ども達の姿である。



【授業の始まり】

授業者が本時の学習の進め方や、発表マナー、聴く側のマナー、質問の仕方等について確認する。柔らかく、明確な言葉で、時々笑みを浮かべながら語っていく。授業づくりについて、同僚と相当語ったのであろう、授業者の言葉や動きに無駄がなく整然としている。自信と安心をもって授業に臨んでいる。写真①、授業者の話に聴き入る子ども達の「眼」を見てほしい。これが「分かりたい」眼である。



写真①

【授業の流れ】

3年生にとって初めての総合的な学習の時間における発表会スタイルの授業である。発表の流れとしては、写真②：個人で調べたことを発表する。写真③：発表者への質問。写真④：発表者のよかったところや互いの「気づき」をグループ内で交流する。その後グループで話が出たことを代表者が発表し全体での共有を図る。授業者は、発表者や聴く側の支援にあたる。写真③の授業者の見守る姿を見てほしい。



写真②



写真③



写真④

発表する側、聴く側両者に向けられる「見守り」である。お互いの発表は教師に向けられるのではなく、教室の仲間に向けられるよう配慮した教師の位置である。

発表① 「牛君新聞」 牛からは、牛肉以外にも牛乳やバターがつくれる。



寄り添う教師の姿。

さあ、本日最初の発表者である。私たち授業者は何を考えるだろうか？「大きな声で、はっきりと、相手に分かりやすく等？」。子どもはどうだろう。「恥ずかしさや、ちゃんとできるか、質問が来たらどうしよう(不安)。」私達教師の支援は何に向けられるべきだろう。左の写真、教師が寄り添うことで子どもには絶大な「安心」が生まれる。

発表② 「チキン新聞」 チキンの食できる部位や栄養ビタミンについて発表した。何よりも発表後の笑顔が最高だった。右写真→



【本時の評価】

[思考・判断・表現]

☆相手に分かりやすく伝えることができる。

A：相手によく伝わるように資料を効果的に活用している。

B：相手によく伝わるように話している。

C：教師の支援のもとに発表メモを作り話せるように支援する。

【関心・意欲・態度】

☆グループのメンバーと協力して活動にとり組むことができる。

A：発表者への意見や感想を持ち積極的に発言しグループのメンバーと協力している。

B：発表者への意見や感想を持ち発言している。

C：話し合の仕方カードをもとに感想を話せるように支援する。

発表③ 「おさかな新聞」 夏休みに名護漁港に行っている魚を調べてきた。新聞にはデジカメの写真が使われていたが、教師は発表のためにさらに拡大した写真を提示した。子どもの発表が仲間に「分かりやすく」の工夫である。



【聴く側】 仲間の発表を聴いた後、グループに戻り付箋紙に書き込むグループでは司会者が進行し、みんなの「気づき」や「感想を交流させる。みんな一生懸命でした。

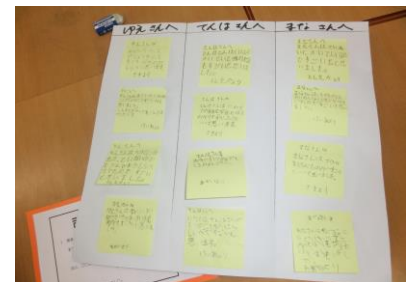


【一枚の写真】



発表者を食い入るように見つめる「眼差し」である。発表者の安心は「聴く側」のこの行為によって支えられていると言っても過言ではない。聴かない者に一生懸命語るバカはいない。教師はよく子ども達に「ちゃんと聴く」を要求するが逆である。この教室は日常の「教師の聴く姿勢」をみんながモデリングしているのである。

教師の日常が子ども達によって映し出されるのである。素晴らしい！



各グループで集められたシートである。発表者に継がれるが、教師もパフォーマンス評価(ポートフォリオ評価)としても活用する。

A先生、ありがとうございます。知念先生、仲村先生とのチームワークもいようですね。安心して10月を迎えてください。M先生が「これまであなたにしてくれたこと」を素直にお返しするときです。素敵な授業、素晴らしい子ども達でした。心より感謝します、ありがとうございました。